第 52 回 X線材料強度に関するシンポジウム開催報告[†]

西田 真之* 八代 浩二**

Report on “The 52th Symposium on X-ray Studies on Mechanical Behavior of Materials”

by

Masayuki NISHIDA* and Koji YATSUSHIRO**

「第 52 回 X線材料強度に関するシンポジウム」を平成 30 年 7 月 12 日 (木)、13 日 (金) の両日、静岡県産業経済会館で開催した。本シンポジウムは X線材料強度部門委員会の主要企画事業であり、国内で国際会議等が開催される場合などを除いて毎年実施されている。ここ数年は関東圏在住の部門委員の利便性にも配慮して関西と関東で交互に開催されており、昨年の兵庫県に続いて今年は JR 静岡駅に近い静岡県産業経済会館での開催となった。今回は講演申込数が 27 件、参加登録者は 66 名と昨年よりやや減少したが、活発な討論が繰り広げられ、盛況のうちに無事閉会となった。天気も晴天に恵まれ充実した内容の二日間であった。

講演の内訳は、両日合わせて結晶構造および微細構造に関する講演が 6 件、溶接および機械加工に関する講演が 6 件、熱処理および表面改質に関する講演が 3 件、薄膜に関する講演が 3 件、新たな測定法や測定精度など測定法に関する講演が 6 件、複合材料および樹脂材料に関する講演が 3 件となっている。

今回のシンポジウムで特徴的だったのは、従来 X線応力測定法では難しいとされてきたプラスチックなどの非金属材料に関する研究において安定したデータが得られ始めたこと、さらには非晶質材料への展開が紹介された講演もいくつかあった。また 2 次元検出器を用いた新たな測定手法にも注目が集まっており、今後の発展と展開が期待される。二日間ともに活発な質疑応答があり、講演時間の 20 分を超過する講演がいくつかあった。その結果、プログラムの進行がやや時間超過気味となったが全体としては充実した内容であった。

本シンポジウムでは若手 (35 歳以下) の研究奨励を目的に社会人および大学院博士後期課程在籍者を対象とした「一般」、そして大学院博士前期課程、修士課程、学部学生を対象とした「学生」の 2 部門で優秀発表賞を設けており、正会員の参加者全員から評価を頂いて受賞者を決定することになっている。今年度の対象者は 10 名であった。審査結果は 9 月の X線部門委員会で最終決定し、来年 1 月に開催予定の「第 55 回 X線材料強度に関する討論会」での授賞式を予定している。

第一日目の夕方には、駿府城跡の静岡県庁別館 21 階

の会場で懇親会を開催した。懇親会の参加費は昨年からの試みで X線部門委員会の負担で無料としており、参加者は 46 名と盛況であった。懇親会では、今回の講演者で最年少の江副真悠氏 (神戸高専、専攻科) による乾杯で始まり、講演では足りなかったディスカッションや情報交換が和気あいあいの中で活発に行われた。なお、来年の第 53 回 X線シンポジウムは関西で開催予定である。

最後に、講演された皆様、講演論文集に広告を掲載頂いた関連メーカー各位、シンポジウムの運営にご協力頂いた関連メーカー各位と学生諸君、そして学会事務局の船越様、三島様には大変お世話になった。この場をお借りして感謝を申し上げる。

図 1 シンポジウム会場の模様

図 2 懇親会の模様

[†] 原稿受理 平成 30 年 9 月 3 日 Received Sep. 3, 2018 ©2018 The Society of Materials Science, Japan

* 正 会 員 神戸市立工業高等専門学校 〒 651-2194 神戸市西区学園東町, Kobe City College of Technology, Nishi-ku, Kobe, 651-2194.

** 正 会 員 山梨県産業技術センター 〒 403-0004 富士吉田市下吉田, Yamanashi Industrial Technology Center, Shimo-yoshida, Fujiyoshida, 403-0004.